

日本の農畜産物を守るために
動物検疫・植物防疫

04

空港で嗅ぎ分ける 検疫探知犬の活躍



国際空港の手荷物受取場などで活躍する、動植物検疫探知犬。

今回はその働きを知るべく、

羽田空港で活動する検疫探知犬に密着しました。



見どころ！

> 動植物検疫探知犬とは？

> 検疫探知犬「絆号」に密着！



農林水産省 動物検疫所 主任検疫官・ハンドラー 玉野麻紀子さん
動植物検疫探知犬「絆（キズナ）」号 4歳

動植物検疫探知犬とは？

動植物検疫探知犬(以下、検疫探知犬)は、旅客の手荷物や国際郵便物などの中から動植物検疫の検査を必要とする肉製品、果物等を嗅ぎ分けて発見する訓練を受けた犬です。輸入禁止品を水際で発見することにより、口蹄疫(FMD)やアフリカ豚熱(ASF)など家畜の伝染病、ミバエなど植物病害虫が、肉製品や果物等を介して日本へ侵入することを防ぐという重要な役割を担っています。

空港の入国検査場で働く検疫探知犬は、主にビーグル犬です。ビーグルは狩猟犬で、人に従順かつにおいを嗅ぎ分けるのが得意としています。その実力は、キャリーバッグの外側から真空パックされた肉製品を探し当てるほど。また、小さくて可愛らしいので旅行者に威圧感を与えず、人混みのなかでも小回りがきく点も探知に適しています。

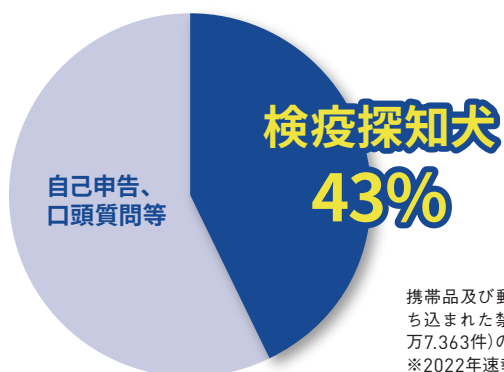
検疫探知犬の禁止品探知実績

探知件数の約4割が検疫探知犬によるものと、実績に大きく貢献。現在は主要空港だけでなく地方空港への配備も進み、全国で140頭の検疫探知犬が活躍しています。

／ 活躍中！ ／



動植物検疫探知犬
イメージキャラクター
クンくん



携帯品及び郵便として持ち込まれた禁止品等(10万7,363件)の43%
※2022年速報値



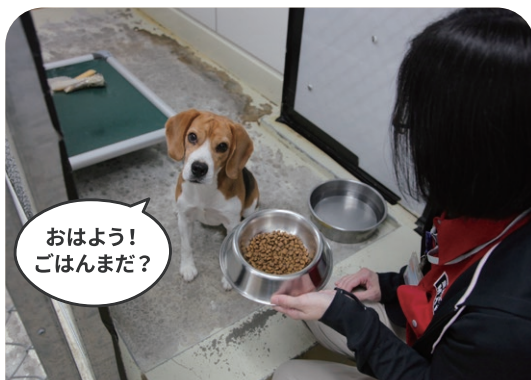
関西空港で働く検疫探知犬「セシル号」が見つけた鶏足を煮込んだもの。

検疫探知犬「絆号」に密着！

検疫探知犬は、一日の多くをペアのハンドラー（検疫探知犬を扱う人）と過ごします。空港での任務のほかは、どのように過ごしているのでしょうか。検疫探知犬、絆号のとある1日の活動内容をご紹介します。

朝の準備

9:00～10:00



おはよう！
ごはんまだ？

食事

ハンドラーが犬舎に到着したら、まずは朝食。絆号は食欲旺盛！食物を探知する仕事なので、食いしん坊であることは大事な要素です。



きれいに
してくれて
ありがとう

犬房の掃除

犬房の掃除も、ハンドラーの仕事。絆をケージに移し、モップとタオルで床を磨き上げます。絆号が休息時間を過ごす場所なので、毎日清潔に。



お散歩
大好き！

朝の散歩・排泄

胃腸の動きが活発になってきたところで、犬舎の駐車場にて短めの散歩。散歩は、任務を終えた夕方にも行います。



すっきりして
気持ち
いいんだよ

歯磨き・グルーミング

歯磨きとグルーミングは必ずペアのハンドラーが行い、健康状態も同時にチェック。荷物に接する可能性もあるため、ブラッシングなど衛生管理は入念に。

いざ出勤！

10:00～17:00



10時ごろには活動場所である空港へ出発し、探知活動と訓練を開始。探知は交代制で行われ、出番が来たら手荷物受取場へ！



対象物のにおいを探知したら、荷物の脇で「お座り」をして知らせます。ハンドラーから知らせを受けた動物検疫所の検査官は、旅行者の荷物を確認します。



荷物受け取りのターンテーブルの回りで、ハンドラーとともに旅行者の間を縫って荷物を嗅ぎ分けていきます。



荷物の中から肉製品や果物が見つかったら、ご褒美のおやつがもらえます。使命感をもって仕事にあたってくれるので、たくさんほめてあげます。

一日の終わり

17:00～

17時までは空港で探知や訓練を何度か繰り返したあと、犬舎に戻ります。18時半までハンドラーと一緒に散歩をしたり、食事をします。その後は、犬房でリラックスタイムです。

